

ボランティアグループすまいるの歩み

代表 岡部真紀子●震災救援活動のボランティアグループとしてスタートした「すまいる」は、仮設住宅が解消された後、気になる被災高齢者の後を追うようにHAT神戸・協の浜復興住宅に活動の拠点を定めました。以降、ふれあい喫茶を毎週定期開催し、今では、顔なじみの高齢者と若い親子連れのお客さんが常時30人ほど来店、スタッフ4～6人とともに和気あいあいとしたひとときを過ごしています。そんなふれあい喫茶も、今年で足かけ8年となりました。

スタッフの想い

赤井紀代美●震災という大きな節目がなかったら、今の私がないように思います。はじめは、「やらなきゃ」という思いで突っ走ったという感じですが、



今の喫茶はスタッフが引っ張っているというより、来てくれるお年寄りの方がいてこそ成り立っています。毎週来てくれる人の笑顔が見たくてスタッフも頑張ってきて、お年寄りの方も安心して集える場が集会所に出来たと思います。“来週もまた来てネ”と声かけするのも心から湧き上がってくる気持ちの表れでもあります。週に一度でもホッとする場の提供が長く続く事を願いつつ、スタッフもお年よりもやって良かったと思える空間にこれからはなっていけたらなあと思います。

中澤慶子●出不精の私が「すまいる」に参加するようになってもう4年がたちました。「すまいる」に来てたくさんの方と触れ合ってお話をして、結局は私が多くの笑顔や心をいただいて、また次を楽しみに参加して・・・4年はあっという間でした。「すまいるで」の活動を出発点に他のボランティアなどにも参加できるようになった私にとってここはみんなに会うたびに元気をもらい原点に戻れる大切な場所です。

吉川かおり●オギャーオギャー、エーンエーン、ワッハッハッハ、アッハッハッハ、いろんな声が聞こえ、赤ちゃん、お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんいろんな年代の人が、一緒に時を過ごす場所がすまいる喫茶です。現在このような、いろんな世代の人が集まれる場所が他にあるでしょうか？とても貴重な場所だと思います。大人はこどもから、こどもは大人からいろんなものを吸

取し、刺激し、そして癒されています。もちろん私にとっても大切な場所です。これからも、すまいる喫茶がみんなに愛され、末長く続くことを願います。

谷水美智子●震災後の復興住宅で頑張って暮らしている方がたにスタッフも元気をもらいながらの「喫茶すまいる」は毎週欠かさず続けられ、今ではお互いの健康など気遣いながら、まるで家族の様な雰囲気になっているように感じられます。最近では赤ちゃん連れの若いお母さんも集まってこれ核家族が多くなった現在お年寄りからお孫さんのようにかわいがられ、また若いお母さん達も少し息抜きにもなり、なかなか有意義なことではないかと思えます。続けることは大変ですが若い方達にもお手伝いしていただきながらこれからも、皆が健康で楽しく暮らしていけますように願っています。本当に「すまいる」のネーミング、素晴らしいですね。

岡部久美子●私が本格的に「すまいる」のスタッフとして関わるようになったのは、息子を出産してからのことです。初めは、自分自身の暇つぶし程度に考えていました。しかし、生後1ヶ月の息子を連れて行くと、地域の方々が思いのほか喜んでくださいました。また息子も色々な方に交互に抱っこされると、声を出したり手足をバタバタさせて喜びました。そうするうちに、いつの間にかお客さんたちがお茶を飲むだけでなく、息子の顔を見るのを楽しみに来てくれるようになりました。そして現在、息子のお友達が毎週3組程常連で六甲道の方から足を運んでくれます。ママたちは声を揃えて、「我が子が高齢者や地域の方と接する機会がなかなかない。ここへ来るとみんなが話しかけてくれる。子どもだけでなく、自分も話せるようになってきた。また随分と顔を覚えてもらえてきたようで、とても嬉しい。」と言います。また、「ぜひ、震災の時の話も聞きたい。」とも言っています。地域の方も、「どこから来たの?」「どの子があなたの子?」などとママたちにも話しかけてくださるようになりました。地域の人々との繋がりがなくなりつつある中、この貴重な空間にいられることを有難く思います。また、個人的には、代表である母の願いである「様々な世代が共に集う場」の実現の手伝いができたことを幸せに思います。



次号は利用者の方の声や様子を掲載します。

交通安全教室

8月21日(月)
あしすと武庫之荘にて

交通安全教室を開催しました。講師は紺本直さん(生協都市生活・管理部部長)です。自動車や自転車はヘルパーにとって必須の移動手段。だから無事故・無違反は、ヘルパーにとって大切な使命です。本人の命を守ることはもとより、サービス利用者に迷惑をかけない為にも。以下、参加者の感想を聞いてみました。

◆立川マチ子

①2段階停止、先にバック、真中を走る。②かもしれない運転。③見えないところ→見えるようにする努力。ヒヤッと、ハッとを避ける為の習慣をつける、止め方、走り方などなど。とてもいい勉強になりました。皆で事例検討を話し合うことが大切と教えていただきました。

◆水崎佳子

・車を運転する機会が増えてくるにつれて運転に対する緊張感が薄れてきています。
・「死角」について、いつも自身で注意しているつもりでしたが、実際は「物理的死角」「状況的死角」の面だけを重視していたと気付きました。「心理的死角」については軽視していたと反省しました。

◆常深育子

普段気をつけて運転しているつもりでも少しの油断で事故は起こる。常に危険はある、無理はしない等、今回の講習で再度気をつけなければと感じました。

◆磯田紀美子

車は運転できませんが自転車だからと安心しないで交通ルールを守って走るように心がけようと思いました。

◆松本教子

・事故に合うか合わないか本当に紙一重で怖い思いをしましたので、また気分を新たに運転を気をつけていきたいと思います。
・講師の先生の事例の話など参考にになりました。

◆津田初美

・事故に遭わないためには、見えないところはわからないので見えないところ(死角)を知って防衛運転をする。
・事故を防ぐには2段階停止・バックをする運転はしない、道路は真ん中を走る等に注意する。
・事故の事例を知り検討する、これからの生活に参考にしていきたいと思いました。

◆河村久子

・私自身運転免許を持たないのですが、今回、車側から見た事故に合わない為の講習を色々勉強できました。私は毎日のように自転車にのっているのですが、事故に遭わないことにきをつけていますが、やはりあわてている時などヒヤッとしたことが何度かありました。
・自転車と共通のところがありますので充分、気をつけていきたいと思っています。

◆落合久恵

・車の運転で危険な場面の説明を図やビデオで教えてもらって納得しました。(自分は運転できないので残念ですが)
・改めてこのような時間を持つことがとても意義があるものだと思います。皆で経験等を出し合い、死角についての実験も行いました。
・自転車の事故も多くなり、大変危険なことも、いつも感じているので、気を付けて乗りたいと思います。とても、よい勉強になりました。

◆半田典子

・ヒヤッとハッとが多いです。出来るだけ少なくするよう今日教えていただいたことを守って運転したいと思っています。
・運転は苦手ですが、利用者さん宅へ訪問するのにどうしても必要です。仕事で運転する以上、運転にもプロ意識を持ちたいと思います。
・今日は意識が高まったと思いますが時間がたつと忘れてしまいがちです。このような機会を度々もつこと講習会に限らずヘルパーどうして常に、話をすることも大切だと思います。

料理研修

あしすと武庫之荘で毎月1回行っている研修の報告です



3回目は京懐石風に上品に仕上げました。

- あなごちらし寿司
- 卵豆腐の吸い物
- とりミンチのきのこいっぱいあんかけ
- オクラのごま和え
- 黒豆煮物
- 三色白玉の新しょうがシロップかけ

作る方も食べる方も3回目とあって気合いが入ってきました。作るときに、切り方や味付けに高齢者向きの工夫が見られます。利用者さんたちは食べながらどんな感想を言おうかと考えて噛みしめられているのが伝わってきます。何よりいいことは、ボランティアスタッフが気軽に参加できるようになったことです。

あしすと武庫之荘 佐々木京子

2006年度☆介護保険事業報告

- ★あ・し・す・と(垂水)
- ★あしすと武庫之荘(尼崎)

●現在、2つの事業所を拠点に都市生活組合員が中心となってヘルパー派遣事業を行っています。(あしすと西宮は6/1をもって、あしすと武庫之荘と統合しました)
●武庫之荘では居宅介護支援事業(ケアプラン)、障害福祉サービス事業も行っていきます。

- 垂水
- 武庫之荘
- 西宮
- 居宅介護支援

